

ISO15189 の管理および運用において Microsoft Excel の活用法

○黒沢 貴之

横浜市大附属病院臨床検査部

キーワード ISO15189 Microsoft Excel Visual Basic for Applications(VBA)

【はじめに】

横浜市大附属病院は 2010 年 1 月に ISO15189 の認定を取得し、2014 年 1 月に 2012 年版の更新を完了した。その管理および運用において Microsoft Excel の Visual Basic for Applications(VBA)を活用している事例について報告を行う。

【方法】

1. 標準作業手順書(SOP)の作成

Microsoft Excel の 1 つの sheet をデータベースとして利用し、SOP を一元管理する。管理と作業でファイルを別にしてシステムを構築した。

2. 文書管理台帳の管理

最新版の管理記録を残すことで、旧版の記録を自動作成する仕組みにした。SOP の項目は SOP 管理ファイルから自動作成する仕組みにした。

3. 内部精度管理の運用

日々行っている処理記録や試薬交換などの記録情報を簡単に一元管理し蓄積できる仕組みにした。

【結果】

1. SOP を一元管理することにより、膨大な数のファイルを個々に管理する必要が無くなった。同じフォーマットを利用して作成するので、レイアウトが統一された。

2. 管理台帳の過去からの一覧表が自動で作成されることにより、手間が省け、入力漏れがなくなった。

3. 日々行っている作業を Microsoft Excel で一元管理することにより、ペーパーレスにつながった。蓄積された情報から月間報告書が作成できるようになった。

【考察】

SOP をデータベース化することにより、その情報を有効活用でき、ウェブで表示することが可能になった。また、内部精度管理をシステム化することにより、数値化できる項目の管理が統一化され、運用と評価が簡便になった。

【結論】

SOP の作成および内部精度管理は重要であり、時間がとられる作業である。Microsoft Excel の Visual Basic for Applications(VBA)を利用することで、専用のソフトを使わずに自分で簡単なシステムを構築することができた。それにより効率的に管理、運用を行うことができた。